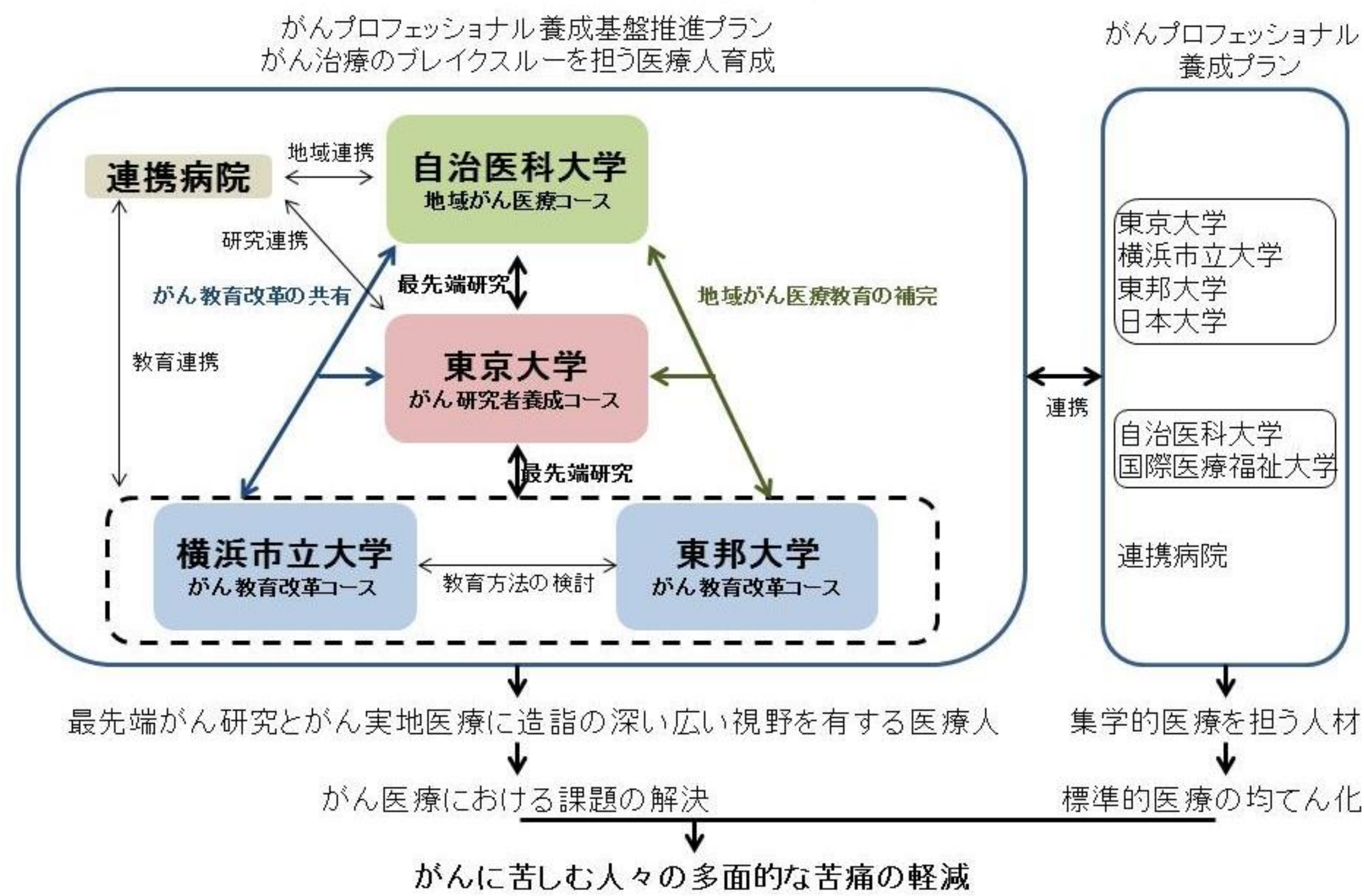


概要

がん医療の均てん化が推進されている現在においても、根治できない難治がんが多数存在することや緩和ケアが不十分であることなど、がん医療には未解決の課題が山積している。これらの課題に対して、**がんの本質的な研究を遂行できる環境を拡大整備し、他職種の医療人が異なる角度から協力し臨床問題解決型の研究を行うことが必要**である。

本プランでは、研究者養成に重点を置く東京大学と教育改革や地域医療を推進する横浜市立大学・東邦大学・自治医科大学が連携することにより、**最先端研究とがんの実地医療の両方に力を注ぎ、広い視点からがん医療を先導し改革することのできる医療人の育成**を目指す。その結果、がん治療のブレイクスルーとなる成果が得られるとともに、がん患者のがんによる苦痛が軽減されることを期待する。

がん専門医療人の育成



- 東京大学に**がん研究者養成に重点を置くコース**を設置することにより、がんの根治を目指す薬物療法と放射線療法を開発するために必要な研究を遂行する能力を有する医療人を育成する。
- 緩和医療で10年の実績を有する東京大学に**緩和医療学講座**を設置し、がん研究者養成に重点を置くコースにおいてがん治療における身体及び精神症状に対する治療開発を担う能力を有する医療人を育成する。
- 横浜市立大学・東邦大学・自治医科大学に、**地域がん医療に貢献するがん専門医療人**に重点を置くコースと、**がん教育改革によるがん専門医療人養成**に重点を置くコースを設置し、専門職協働、がん医療マネジメント、先端がん医療に深い造詣を有する医療人を育成し、ストレスの少ない効率的ながん医療体制の確立を推進する。

各施設の教育コース

大学	専攻	教育コース	重点	目標人数 (5年間)
東京大学	大学院医学系研究科	がん研究医療人養成コース	研究者	50
横浜市立大学	大学院医学研究科 医科学専攻	先端的がん治療専門医療人養成コース	教育改革	15
東邦大学	大学院医学研究科 腫瘍学専攻	がん多職種連携教育コース	教育改革	13
自治医科大学	大学院医学研究科 地域医療学専攻	総合医・地域腫瘍学コース	地域貢献	14

これまでの取り組み

がんプロフェッショナル養成プラン

19年度	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市立大、東邦大、日本大板橋病院に「がんサポート」設置(東京大学は設置済) 横浜市立大にてe-ラーニングシステムを稼働 横浜市立大に臨床腫瘍科学講座を設置 横浜市立大で多職種を対象にした乳がん学校第1期を開講 日本大附属板橋病院に腫瘍センター、緩和ケア外来、がん相談支援センターを設置
20年度	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市立大学にて多職種を対象に乳がんの最新治療の教育を目的とした乳がん学校第2期を開講 東邦大学にて基礎腫瘍学及び臨床腫瘍学を開講 東邦大学に院内及び院外の医療従事者を対象とした「東邦化学療法会」を設立
21年度	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護系大学協議会より東京大看護師コース(がん看護:専門看護師教育コース)が専門看護師教育課程に認定 横浜市立大学にて市民・がんプロ公開セミナーを開始 横浜市立大学附属病院に緩和医療部を設立 東邦大学にてe-ラーニングによる講義を開始 日大板橋病院がん相談支援センターで地域医療支援業務開始
22年度	<ul style="list-style-type: none"> 東邦大学で社会人専攻生によるがんプロコースを開講 日本大学医学部にインテンシブコースを設置
23年度	<ul style="list-style-type: none"> 東京大学医学部附属病院の緩和ケア診療部が院内措置の組織から大学が定める組織に認定 横浜市立大学にて多職種を対象に乳がんの最新治療の教育を目的とした乳がん学校第4期を開講

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

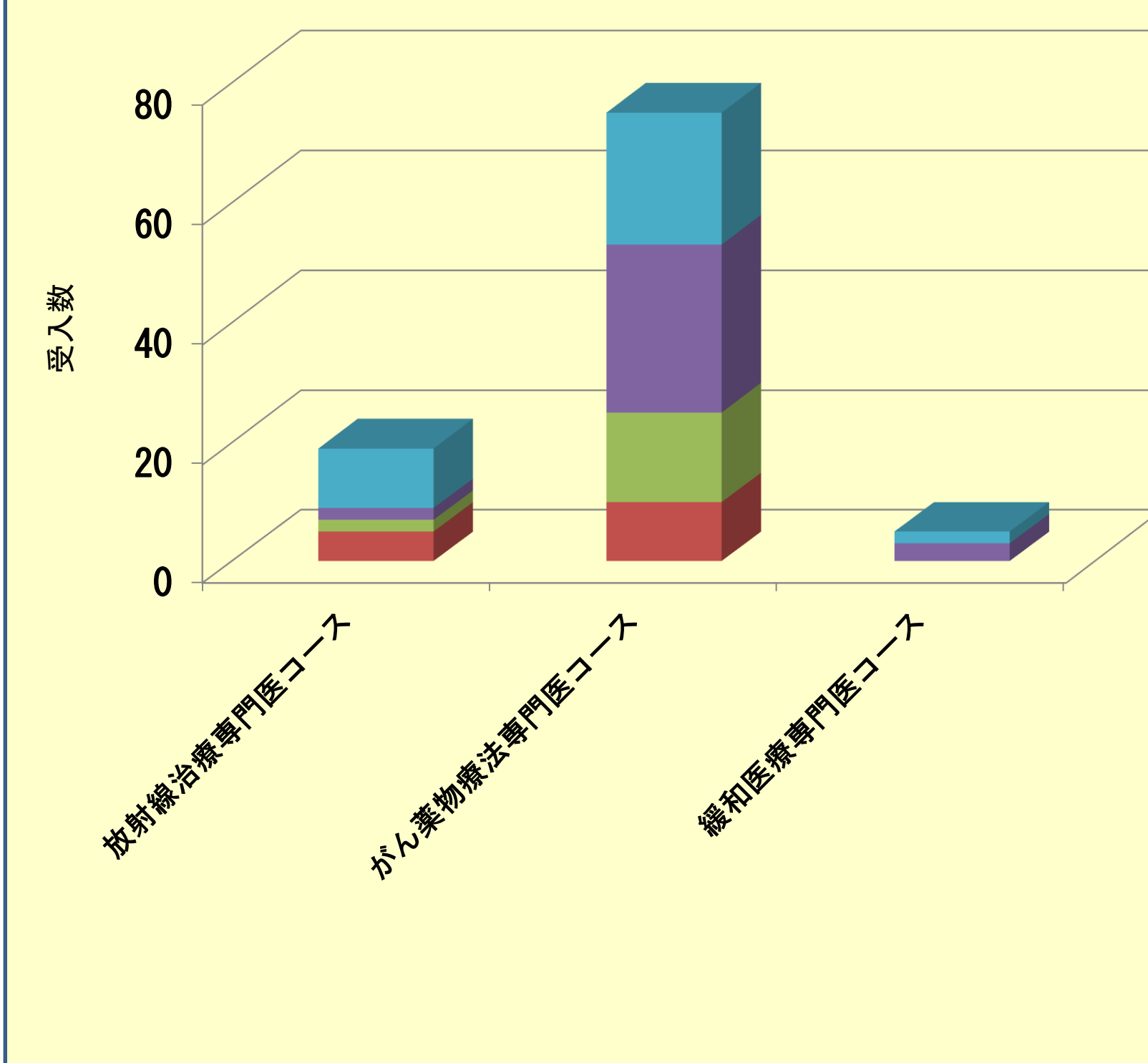
- 学生の成果発表の場を設け、他分野の研究やキャリアパスを聴講できる機会を作るために、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン履修生による**研究発表会**を開催し、がん研究レベルの向上を図る。
- 「がん治療のブレイクスルーを担う人材育成」という目標を達成するためのキャリアパス形成を手助けし、患者の視点に立った問題解決意識を向上させるために**チューター制度**を構築する。
- 指導教員により**がん医療における臨床的能力**を積極的に評価する。

研究発表会における発表内容例 (2012年12月22日開催)	
血液・腫瘍内科	① NF-κB/TNF-αフィードバックループとプロテアソーム機構の活性化は骨髄性腫瘍の白血病幹細胞機能を支持する
薬剤部	② スニチニブによる副作用発現機構の解析
放射線科	③ 全摘後甲状腺分化癌に対する放射性ヨード内用療法の線量分布
緩和ケア診療部	④ 腹水濾過濃縮再静注法の実験と臨床的効果
消化器内科	⑤ 降圧薬と大腸ポリープとの関連について
血液・腫瘍内科	⑥ 慢性骨髄単球性白血病由来iPS細胞の樹立とその解析

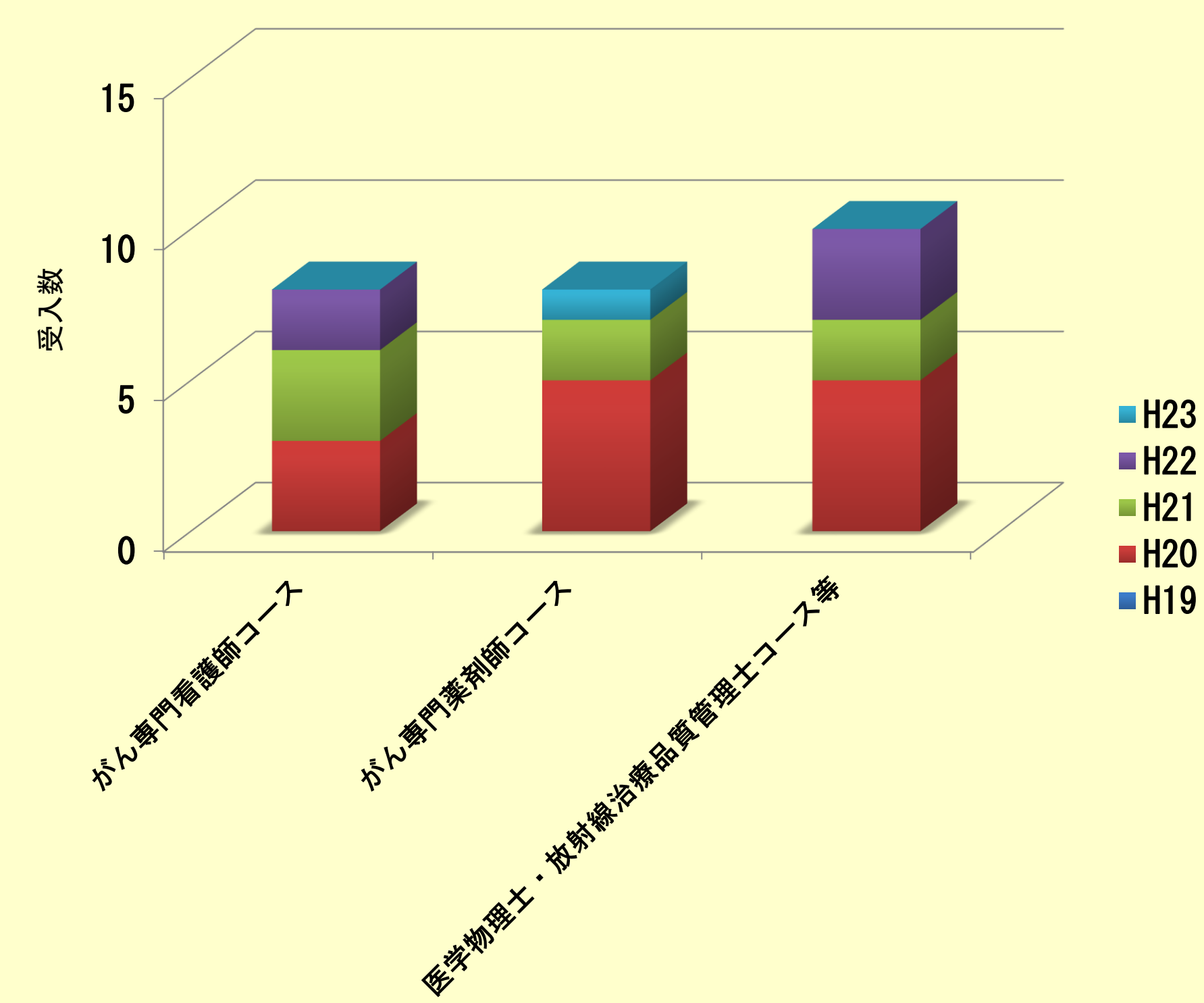
大学院教育の成果

がんプロコース在籍中の大学院生を筆頭著者とするがん研究の論文が、臨床・基礎のさまざまな領域について発表されている。また、がんプロコース履修者からがん薬物療法専門医の資格取得者を輩出している。

専門医師養成コース



医師以外の医療スタッフ養成コース



四大学合同セミナー

本セミナーは、毎月1回、がん医療・がん研究に携わる医療従事者にとって有用なテーマを臨床腫瘍学、放射線治療、緩和ケア領域から選び、総論的内容から各専門領域の最新の知見まで、幅広く実践的な講義を開催している。

対象は当プラン研修者に限定せず、がん医療・がん研究に興味を持つ医学生・若手医師および医療従事者を対象とし、施設全体あるいは地域の連携医のがん診療に関する専門知識を向上させることをも目標としている。

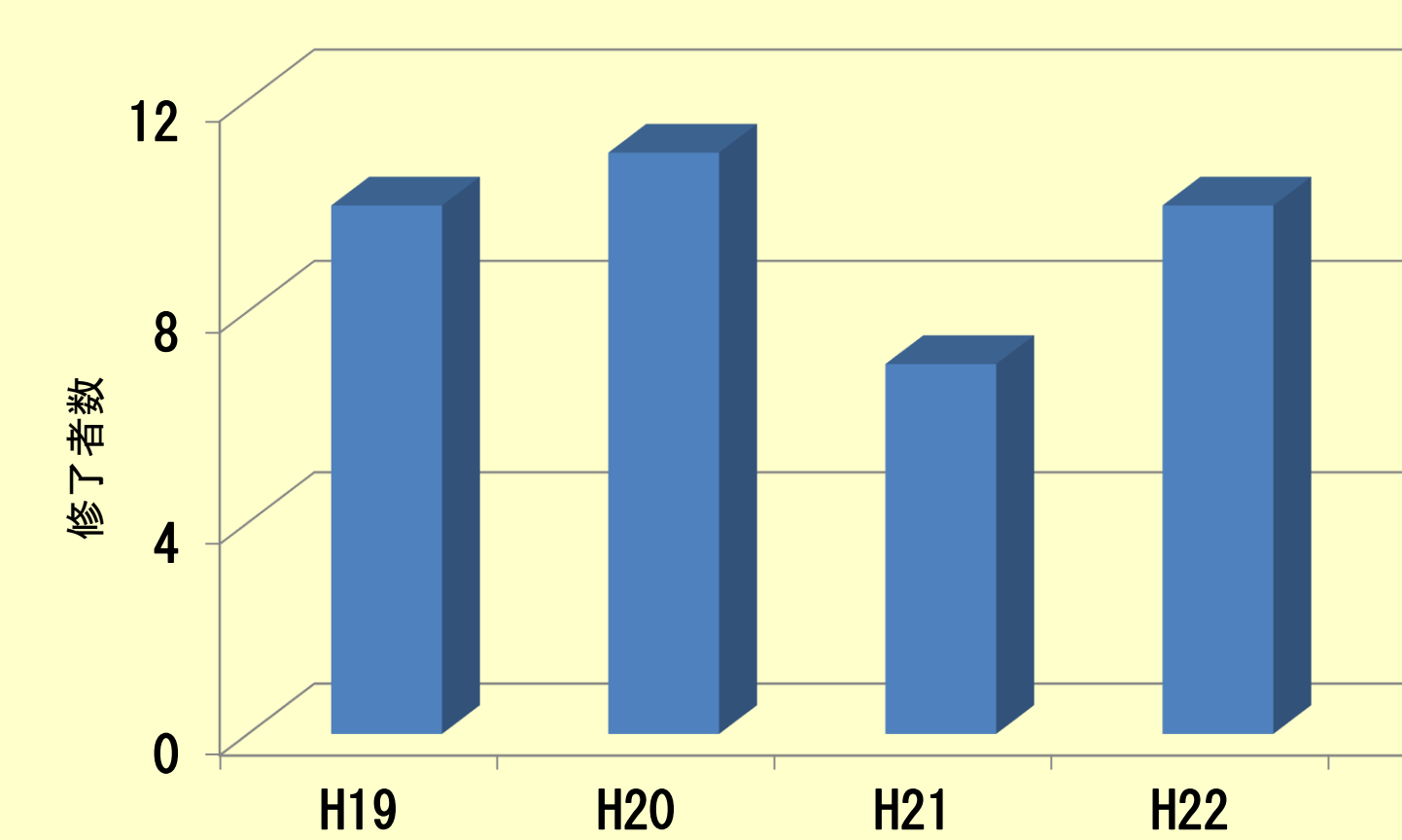
がんプロフェッショナル養成プラン

回数	開催日	演題	回数	開催日	演題
1	2008.1.30	乳癌の集学的治療	22	2010.2.22	CART — 腹水濾過濃縮再静注法 —
2	2.21	多発性骨髄腫の治療	23	3.24	転移性骨腫瘍の治療
3	3.21	日本人の死生観と緩和ケア・癌性疼痛と麻薬	24	5.21	がん患者の呼吸器症状のマネジメント
4	4.18	抗癌剤併用の理論的根拠	25	7.8	肺癌治療の最前線
5	4.30	Radiation-based Cancer Imaging and Therapy	26	7.29	転移性脳腫瘍
6	6.25	抗癌剤の臨床薬理	27	9.3	悪性リンパ腫治療の最前線
7	7.11	がんプロを目指す！抗癌剤から緩和医療まで	28	10.13	喫煙とがん
8	9.14	肺癌の診断と治療	29	11.24	がん疼痛治療のレシジ
9	10.15	緩和医療の研究成果と実践	30	12.14	抗がん剤の開発と臨床試験
10	12.8	胸部食道癌の集学的治療	31	2011.1.19	頭頸部癌の集学的治療
11	2009.1.23	最新放射線治療とチーム医療	32	2.24	がん患者のせん妄
12	3.10	精神腫瘍学 がん医療における心の医学	33	4.25	がん患者における気持ちのつらさ
13	3.27	直腸がんの術前化学放射線療法—現状と将来展望—	34	5.11	化学療法に伴う骨髄抑制対策
14	4.22	分子標的薬の最近の動向	35	5.30	がん診療における医療倫理
15	6.16	Endoscopic Biliary & Digestive Tract Stenting ~緩和医療から集学的治療へ~	36	9.22	急性白血病治療の最前線
16	7.2	がん医療の効率化—アメリカの医療システムに学ぶ—	37	10.19	肺がんの化学療法
17	9.16	子宮頸がんの基礎から臨床、そして予防へ 婦人科細胞診:直接塗抹から液状細胞診へ	38	11.24	抗がん剤耐性の分子機構
18	10.22	リンパ浮腫に対する予防と治療の実践	39	12.13	子宮頸癌の集学的治療
19	11.25	化学療法 嘔気嘔吐対策講習会	40	2012.1.17	「患者中心のチーム医療とは？」緩和ケアチームの活動を通して
20	12.11	前立腺癌の集学的治療	41	1.30	放射線治療における精度向上と有害事象の低減
21	2010.1.25	がん地域医療連携の現状とあり方 ~ケアの三角形~	42	2.29	小児血液悪性腫瘍における化学療法

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

回数	開催日	演題	回数	開催日	演題
1	2012.5.22	新規抗がん剤と放射線治療併用の課題 子宮頸がん、食道がんに対する放射線化学療法のネダプラチンの有用性	5	10.4	放射線治療の過去・現在・未来—4次元治療に向けて—
2	6.22	ゲノム安定性の特性に基づくがん治療の開発	6	10.16	白血病幹細胞
3	7.1	腹腔内化学療法の基礎と臨床	7	11.15	米国での造血幹細胞移植における多職種連携
4	9.28	骨転移の診断と治療			

インテンシブコース



学会発表・論文数

